

3つのポリシー ガイドラインによる改定

鶴見大学大学院

研究科	共通ポリシー	文学研究科博士前期課程	文学研究科博士後期課程
ディプロマ・ポリシー	<p>【本大学院はどのような人材を育成し、学位を授与するのか。】</p> <p>本大学院は、世界の中の自己を正しく認識し、感謝と慈愛の心を持つとともに、高度にして専門的な学術理論の深奥を究め、その応用によって社会の発展と福祉の増進に貢献する有能な研究者に対して学位を授与します。</p>	<p>文学研究科博士前期課程では、学問の意義と研究者の責務を理解し、所定の年限在籍、必要単位を履修し十分な学力を獲得して、適切な研究指導に基づく修士論文の作成及び最終試験合格の要件を満たした場合において、修士（文学・文化財学）を授与します。</p> <p>DP1 学問の意義と研究者の倫理的・社会的責任を理解する。（全学 DP1）</p> <p>DP2 専門分野に関する研究上の自己確立を目指す。（全学 DP3）</p> <p>DP3 高度の専門性を有する職業等に必要な能力を備える。（全学 DP4）</p> <p>DP4 専門的知識と研究能力を活かし、学術的・社会的貢献にむけて努力する。（全学 DP2・DP4）</p>	<p>文学研究科博士後期課程では、学問の意義と倫理的・社会的責務を理解し、研究者としての能力を錬磨して、所定の年限在籍し必要単位を履修のうえ、適切な研究指導に基づき高度の学術的達成が認められる博士論文を作成し、最終試験合格の要件を満たした場合において、博士（文学・文化財学）を授与します。</p> <p>上記以外の学位請求論文については、博士後期課程修了者と同等以上の学力を有すると認められ、論文審査及び最終試験合格の要件を満たした場合において、博士（文学・文化財学）を授与します。</p> <p>DP1 学問の意義と研究者の倫理的・社会的責任を深く理解する。（全学 DP1）</p> <p>DP2 独自の研究を基盤として自己確立を達成する。（全学 DP3）</p> <p>DP3 高度に専門的な業務に必要な能力と見識を有する。（全学 DP4）</p> <p>DP4 専門的知識と研究能力を活かし、知的価値創造と社会的貢献に資する。（全学 DP2・DP4）</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>【目指すべき人材像を達成するために、どのような教育課程を編成し、実施するのか。】</p> <p>本大学院では、ディプロマ・ポリシーに定める素養と能力を身につけた人材を育成するために、幅広い知識の獲得と各専門分野における高度な学術理論の修得を目指した科目を設置し、あわせて理論の深化応用による質の高い研究指導を行います。</p>	<p>文学研究科博士前期課程では、学問の意義と研究者の責任を正しく理解し、研究上の自己確立・社会的自立・社会貢献を達成する人材育成のために、以下の教育課程を編成し、実施しています。</p> <p>（1）専門教育 基礎的領域に関する知識・技能の再確認を行う科目をはじめ、隣接諸学・補助学等の多彩な科目を設置、他専攻の開講科目も履修可能とし、豊かな学問基盤を形成する。個別専攻分野の高度な学術研究に加え、社会的自立・社会貢献に資する科目群も開設している。</p> <p>（2）研究指導 大学院生一人一人の関心・能力に合わせた個別的指導と、協働・対話を重視する小集団の指導を適切に組み合わせ、貴重書・美術資料・分析機材等、本学独自の施設設備を活用した教育を行い、独創的で高度な研究を目指す。</p>	<p>文学研究科博士後期課程では、学問の意義と研究者の責任を深く理解し、高い見識と独創的研究への道を開き、専門的職業に従事して社会的に自立し、研究成果を説得的に伝達する能力を備えた人材育成のために、以下の教育課程を編成し、実施しています。</p> <p>（1）専門教育 徹底した実証性と明晰な論理性を重視する専門性の高い科目を設置し、研究対象の特性に即した犀利な分析法や幅広い視野で研究を構築する能力を養成する。</p> <p>（2）研究指導 前期課程の成果を踏まえ、より高度で専門的な研究指導を行う。後期課程在学を自立した研究者として鍛え、獲得した学術的知見を説得的・客観的に伝達し発信する能力を養成する。学術と社会の発展に寄与する指導的人材の育成を目指すものである。</p>
アドミッション・ポリシー	<p>【どのような学生に入学してもらいたいか。】</p> <p>目標に向かって今の努力を惜しまない、以下のような人を歓迎します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学術研究に対する強い意欲がある人。</li> <li>2. その成果を生かして社会に貢献する意志がある人。</li> <li>3. 大学院教育の学修に必要な基礎学力（学士課程修了相当）がある人。</li> </ol>	<p>文学研究科博士前期課程では、学問の意義を正しく理解し、新たな知的価値を創造して社会に貢献する、以下のような人を歓迎します。</p> <p>AP 1 学問の意義を理解し、倫理的・社会的責任を自覚している人。（DP1・DP4）</p> <p>AP 2 学士課程修了段階に相当する十分な学力を有する人。（DP2）</p> <p>AP 3 研究成果に基づき社会的に自立する強い意志を持つ人。（DP3）</p> <p>AP 4 専門的知識・技能により学術的・社会的貢献を目指す人。（DP4）</p>	<p>文学研究科博士後期課程では、学問の意義を深く理解し、独創性豊かな研究を遂行して社会に貢献する、以下のような人を歓迎します。</p> <p>AP 1 学問の意義を深く理解し、倫理的・社会的責任を自覚している人。（DP1・DP4）</p> <p>AP 2 専門分野に関する高度な知識・技能を持ち、独自の発想ができる人。（DP2）</p> <p>AP 3 より高度な専門的業務に従事するための能力を有する人。（DP3）</p> <p>AP 4 研究成果を発信し、学術的・社会的貢献を目指す人。（DP4）</p>

鶴見大学大学院

研究科等	共通ポリシー	歯学研究科										
ディプロマ・ポリシー	<p>【本大学院はどのような人材を育成し、学位を授与するのか。】</p> <p>本大学院は、世界の中の自己を正しく認識し、感謝と慈愛の心を持つとともに、高度にして専門的な学術理論の深奥を究め、その応用によって社会の発展と福祉の増進に貢献する有能な研究者に対して学位を授与します。</p>	<p>歯学研究科博士課程では、禅の精神を基に自他を正しく認識し、感謝と慈愛の心を持つとともに、高度にして専門的な歯科医学の深奥を究め、その応用によって医療を通じて社会に貢献できる有能な研究者に対して学位を授与します。所定の単位数を修め、教育理念と目的に沿った研究指導を受け、修業年限内に博士論文の審査及び最終試験に合格し、大学院歯学研究科委員会で可とされた場合において、博士（歯学）を授与します。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>歯学研究科</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>DP</td> <td></td> </tr> <tr> <td>DP1</td> <td>所定の単位数を履修することにより、専門的な知識を習得することに加えて、科学的手法を用いて行った研究結果を適切に考察することによりまとめた論文を提出し、審査に合格した者に学位取得を認める。</td> </tr> <tr> <td>DP2</td> <td>研究経過報告を行い、学位論文には研究の独創性・発展性、論文構成・論理展開の妥当性、研究倫理の自覚と遵守のそれぞれの点について、十分な水準に達することが求められる。</td> </tr> <tr> <td>DP3</td> <td>歯科医学分野において研究者として自立でき、また指導的役割を担う能力を身につけていることが課程修了に必要なものである。</td> </tr> </tbody> </table>	歯学研究科	内容	DP		DP1	所定の単位数を履修することにより、専門的な知識を習得することに加えて、科学的手法を用いて行った研究結果を適切に考察することによりまとめた論文を提出し、審査に合格した者に学位取得を認める。	DP2	研究経過報告を行い、学位論文には研究の独創性・発展性、論文構成・論理展開の妥当性、研究倫理の自覚と遵守のそれぞれの点について、十分な水準に達することが求められる。	DP3	歯科医学分野において研究者として自立でき、また指導的役割を担う能力を身につけていることが課程修了に必要なものである。
歯学研究科	内容											
DP												
DP1	所定の単位数を履修することにより、専門的な知識を習得することに加えて、科学的手法を用いて行った研究結果を適切に考察することによりまとめた論文を提出し、審査に合格した者に学位取得を認める。											
DP2	研究経過報告を行い、学位論文には研究の独創性・発展性、論文構成・論理展開の妥当性、研究倫理の自覚と遵守のそれぞれの点について、十分な水準に達することが求められる。											
DP3	歯科医学分野において研究者として自立でき、また指導的役割を担う能力を身につけていることが課程修了に必要なものである。											
カリキュラム・ポリシー	<p>【目指すべき人材像を達成するために、どのような教育課程を編成し、実施するのか。】</p> <p>本大学院では、ディプロマ・ポリシーに定める素養と能力を身につけた人材を育成するために、幅広い知識の獲得と各専門分野における高度な学術理論の修得を目指した科目を設置し、あわせて理論の深化応用による質の高い研究指導を行います。</p>	<p>歯学研究科博士課程では、高度な専門研究及び専門諸分野の科学的成果に立脚する学際的総合研究を行うために必要な創造的能力を有し、研究者として自立して研究活動を行い、将来高度かつ専門的な業務に従事するために必要な高度な研究遂行能力とその基礎となる豊かな学識を有する人材を養成するために、以下の教育課程を編成し、実施しています。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>目的と内容、主な科目名等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(1) 専門教育</td> <td>歯科医学研究分野において研究者として自立でき、また指導的役割を担う人材を養成する。</td> </tr> <tr> <td>(2) 研究指導</td> <td>研究者として自立するためには、研究課題の設定、研究計画の立案、研究の実施・遂行及び研究成果の発表を必要とする。そのため、独創性と先端性に優れた高度な研究実施能力、研究の妥当性に対する判断力、文献調査能力、発表能力等を育成する。そのためにマンツーマンの先進的並びに質の高い研究指導を行う。</td> </tr> </tbody> </table>		目的と内容、主な科目名等	(1) 専門教育	歯科医学研究分野において研究者として自立でき、また指導的役割を担う人材を養成する。	(2) 研究指導	研究者として自立するためには、研究課題の設定、研究計画の立案、研究の実施・遂行及び研究成果の発表を必要とする。そのため、独創性と先端性に優れた高度な研究実施能力、研究の妥当性に対する判断力、文献調査能力、発表能力等を育成する。そのためにマンツーマンの先進的並びに質の高い研究指導を行う。				
	目的と内容、主な科目名等											
(1) 専門教育	歯科医学研究分野において研究者として自立でき、また指導的役割を担う人材を養成する。											
(2) 研究指導	研究者として自立するためには、研究課題の設定、研究計画の立案、研究の実施・遂行及び研究成果の発表を必要とする。そのため、独創性と先端性に優れた高度な研究実施能力、研究の妥当性に対する判断力、文献調査能力、発表能力等を育成する。そのためにマンツーマンの先進的並びに質の高い研究指導を行う。											
アドミッション・ポリシー	<p>【どのような学生に入学してもらいたいのか。】</p> <p>目標に向かって今の努力を惜しまない、以下のような人を歓迎します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学術研究に対する強い意欲がある人。</li> <li>2. その成果を生かして社会に貢献する意志がある人。</li> <li>3. 大学院教育の学修に必要な基礎学力（学士課程修了相当）がある人。</li> </ol>	<p>歯学研究科博士課程では、感謝と慈愛の心を持つとともに、高度にして専門的な歯科医学の深奥を究めた、歯科医学研究における指導力を発揮できる研究者を養成することを目標としています。そのために以下のような人を歓迎します。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>歯学研究科</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>AP</td> <td></td> </tr> <tr> <td>AP1</td> <td>自然科学に強い好奇心を持ち、高度な専門知識を習得することが可能な基礎学力を持つ人。</td> </tr> <tr> <td>AP2</td> <td>国内外を問わず他者との議論を交わし、かつ協力できるコミュニケーション力を持つ人。</td> </tr> <tr> <td>AP3</td> <td>既存概念にとらわれることなく自ら新しい分野を開拓できる、積極的かつ柔軟な思考を持つ人。</td> </tr> </tbody> </table>	歯学研究科	内容	AP		AP1	自然科学に強い好奇心を持ち、高度な専門知識を習得することが可能な基礎学力を持つ人。	AP2	国内外を問わず他者との議論を交わし、かつ協力できるコミュニケーション力を持つ人。	AP3	既存概念にとらわれることなく自ら新しい分野を開拓できる、積極的かつ柔軟な思考を持つ人。
歯学研究科	内容											
AP												
AP1	自然科学に強い好奇心を持ち、高度な専門知識を習得することが可能な基礎学力を持つ人。											
AP2	国内外を問わず他者との議論を交わし、かつ協力できるコミュニケーション力を持つ人。											
AP3	既存概念にとらわれることなく自ら新しい分野を開拓できる、積極的かつ柔軟な思考を持つ人。											